

園内の花事情

3月末に満開になったサクラは、樹いっばいに花をつけるので見ごたえはありますが、1週間と持たずに散ってしまいます。しかし、散りゆく花びらも園路に敷きつめられると、満開の桜と同様に幻想的な景色になります。



ソメイヨシノより10日ほど早く咲き始めた「まめの遊び場」に植えられている株立ちのオオシマザクラは、3月末には散り始めましたが、広場一面に花びらを敷きつめてくれたので、まるで雪景色のようでした。

運動広場脇のソメイヨシノでも同様の景色が見られるだろうと期待していましたが、今年は雨と風に阻まれて鑑賞できませんでした。かつて見た花吹雪と花のジュータンは絶景でした。来年に望みを託したいと思います。

絶滅危惧種Ⅱ類に指定されているキンランが今年も咲きました。国内ではありふれた和ランでしたが、人工的な育成が難しいことから急激に数を減らしているようです。園内では目立たない場所でひっそりと生育しており、年々数も増えてきました。



左の写真は、ひっそりと毎年咲いてくれるムサシアブミです。光沢のある大きな三つ葉が特徴ですが、2つの葉の間に咲く花は、さらに特徴があります。花を包む苞(ほう)は、上から見ると葉と同じ緑色ですが、内側は濃い紫色で毒々しさを感じてしまいます。昔の馬具だったアブミが名の由来です。

右の写真のウラシマソウは、ムサシアブミと同じ種類の植物ですが、これも変わっています。破れ傘のような葉と付け根に咲く花の苞は、コブラがかま首を持ち上げたような形です。苞の先は長く伸びていて、まるで蛇が舌を伸ばしているように見えます。

公園は人工的に造ったものですが、かつての里山も一部に残っています。

